

2024年7月1日 【清真学園 校長室だより】 「学ぶ」ということ

仕事柄、「学ぶこと」の本質的な意味について考えてきました。時代が大きな変革期にあることを踏まえ、いつの頃からか、アメリカの独学の社会学者エリック・ホフターの「変化の時代には、学ぶ者が地上を制し、学ぶことをやめた者は、自分の力を発揮できる世界がもはや存在しないことに気づく」という言葉を、自分自身の座右の銘としてきました。

清真の生徒達には、常に自律的な学習者であることを期待しています。私たちは、生徒達に対して他律的に、あるいは半ば強制的に「学ばせる」ことは実質的にほぼ不可能であること（あるいは、仮に出来たとしてもほぼ無意味であること）を体験的に知っています。「学ぶ」の主語は常に学び手本人である生徒自身でなければ、真の意味ある学びは決して成立しません。それゆえ、意義や面白さを知り、感じ、主体的に学ぶことができる「すぐれた学び手」を育成することこそが、本校の使命であるとの思いを強くしています。

勉強することの意味について、以前、集会でこんな話をしたことがあります。「人生の選択肢を増やすためには学ぶことが不可欠であること」についてです。例えば、勉強を重ねることは貯蓄ととてもよく似ている面があり、たくさんお金を貯めればいろいろなものを買うことができる。1,000円しかもっていなければ決して2,000円のものを買うことはできない。受験勉強を経て、最終的に志望校に合格するかどうかは別にして、学ぶ過程で「お金」を少しでも多く貯めれば、確実に将来の選択肢は広がる。貴重な高校時代の学びを、単に志望校に受かる落ちるの話に落とし込まず、学びの本質を少しでも理解して次のステージに進んで欲しい。そして、主体的な学びとともに豊かな人生を歩んで欲しい、そのようなことを伝えました。学ぶことには、様々な意味があります。

学ぶことについて、解剖学者の養老孟司氏は次のように述べています。「変わっていくこと、それが学ぶということ、知るということです。自分が変わっていなかったら、何も学んでいないと思えばいい。」学び続けることはすなわち、変化し続けること。私たちが、まぎれもなく時代の転換点にいるという事実を踏まえると、学び続けること、変化し続けることだけが、今を逞しく生き抜き、これからの社会を創造していく当事者たり得る、日々その思いを新たにしています。